

未来への取り組み ~23区の未来図~

第13回 千代田区

千代田区の災害対策「情報難民ゼロ」をめざして （災害ダッシュボード・千代田区防災フェスタ）

千代田区は、区民約6万9千人に対して昼間人口が約90万人と言われ、帰宅困難者対策が大きな課題の1つです。特に昼間人口の多い大丸有地区では多くの帰宅困難者の発生が予想されています。そのため、区は三菱地所株式会社が開発した、帰宅困難者対応システム「災害ダッシュボード」を活用しています。また、9月には区内の子ども・子育て世代の防災意識の向上を図る千代田区防災フェスタを開催する予定です。特集では、この2つの防災対策について紹介します。

大丸有地区における帰宅困難者対応システム「災害ダッシュボード」

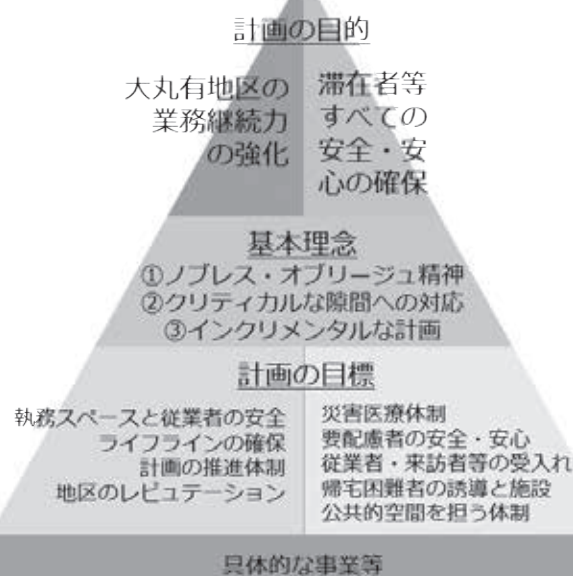
大手町・丸の内・有楽町地区 都市再生安全確保計画

都市再生安全確保計画の意義は、

「本計画の策定・運用により、平常時に限らず災害時においても都市の安全確保を新たな付加価値として位置づけ、高い国際競争力を有するBCD（Business Continuity District：業務継続地区）を目指すこと」。目的は、「これまででのまちづくりの蓄積を踏まえ、公民連携の下、エリアマネジメントの一環として、都市防災機能を強化し、地区の安全の重層的な確保を目指したハード・ソフト両面の取組みを推進していくこと」で具体的には次の2点を掲げています。①日本経済の中枢機能を担う大丸有地区の業務継続力の強化、②日本有数の業務、交流・文化地区として滞在者すべての安全・安心の

平成24（2012）年7月、都市再生特別措置法が改正され、都市再生安全確保計画制度が創設されました。これに基づき、東京都心・臨海地域都市再生緊急整備協議会では、大手町・丸の内・有楽町地区（以下、大丸有地区）における都市防災機能を強化し、同地区の安全確保を目指したハード・ソフト両面の取組みを推進するために、都市再生安全確保計画の作成に向けた取り組みを進めてきました。本計画は、この協議会の下に設置された大丸有地区都市再生安全確保計画作成部会において承認し、作成したものです。

災害への備え（防災）を新たな付加価値とし、高い国際競争力を有するBCDを実現



大丸有地区における滞在者等の安全の確保に関する基本的な方針

帰宅困難者への情報提供を行う災害ダッシュボード

大丸有地区都市再生安全確保計画作成部会の構成員である三菱地所は、大丸有地区都市再生安全確保計画の具体的な取り組みとして、平成29年度より災害ダッシュボードの実証実験を重ねてきました。災害ダッシュボードとは、帰宅困難者対応のシステムで大地震等の災害発生時、大丸有地区内の帰宅困難者等一時受入施設が施設の開設状況や満空情報をシステムに入力すること、デジタルサイネージ「丸の内ビジョン」やインターネット上で情報が公開され、帰宅困難者への情報提供及び自発的な移動を可能とします。イ



樋口区長と三菱地所後藤部長の締結式



デジタルサイネージの表示イメージ



災害ダッシュボード Web 版の一部

ギリスの首都ロンドンでオープンデータ活用されている「ロンドンダッシュボード」から想起し、開発されました。千代田区は三菱地所と活用に係る協定を締結し、令和6年2月7日より運用を開始しました。原則震度5強以上の地震発生時等に運用します。

① デジタルサイネージ版

丸の内ビルディングなど大丸有地区の施設に設置されているデジタルサイネージ（丸の内ビジョン）に情報を表示します。サイネージ設置数は、ビル24棟、行幸地下通路、東京駅前地下広場など約100台。表示内容はNHK等のTVニュース、都・区・鉄道・東

京電力等の公式X（旧Twitter）のポスト情報、帰宅困難者等一時受入施設の開設情報など。NHKのTVニュースは東日本大震災時にもデジタルサイネージに表示しており、その必要性や重要性が実証されています。

② デジタルマップ版

帰宅困難者がスマートフォンで二次元コードを読み、Webサイトへアクセスすることで、区からのお知らせや帰宅困難者等一時受入施設の開設情報等を確認できます。マップ上の施設をタップするとGoogle Mapsが起動し、その施設までのルート案内を行います。また、帰宅困難者が多く集まる駅には、二次元コードを記載したポスターを掲出しています。このコードを読み取ると、デジタルマップ版にアク

セスできるため、空いている施設へ自発的に移動を促すことができます。ポスターは、大丸有地区のJR東日本、JR東海、東京メトロ、都営地下鉄の協力のもと、掲出されています。（一部は災害時のみの掲出）

③ Web版

主にデジタルサイネージ版の内容をWebサイト上で閲覧できるものになります。基本的に、一斉帰宅の抑制として約35万人の在勤者には勤め先で待機してもらいたいことと、サイネージの設置場所は主に大丸有地区の商業・交流ゾーンであり、情報を確認したい帰宅困難者で混雑を発生させないため、特に在勤者向けに開発されました。デジタルサイネージ版との違いとしてNHK Worldが視聴可能なため、外国人対応を行うTourist Information Centerやホテルなどでも今後活用を検討しています。災害ダッシュボードの活用により、課題の1つである帰宅困難者への迅速な情報提供による混雑回避が期待でき、安全・安心の確保、ひいては交通機関等の混雑緩和などの効果も期待されます。

進化を続けている災害ダッシュボードの実証実験

平成29年度より 実証実験を開始

災害ダッシュボードを開発した三菱地所では、平成29年度より毎年その実証実験を行っています。また、「平成29年度千代田区帰宅困難者対応訓練」に合わせた大丸有地区における防災の取り組みとして、同地区の鉄道・不動産事業者等が災害時の状況把握、帰宅困難者対策、負傷者対応に活用するため、試験的に開発した災害ダッシュボードを使い、三菱地所をはじめ10事業者にライブ映像を配信する防災訓練を実施しました。

続く平成30年度には、前年発表した災害ダッシュボードの機能をより強化した「災害ダッシュボード2・0」を活用した実証実験を、千代田区・鉄道各社・バス事業者・ビル事業者と連携して実施しました。実施内容は、Web画面を通じた千代田区災害対策本部・駅周辺・道路・仮救護所等の状況把握、負傷者の発生・搬送・トリアージによる重症度判定のWeb上での俯瞰等を行いました。

令和元年度からは TVニュース等の情報提供

令和元年度には、各事業者との連携も行いながら、「災害ダッシュボード3・0」の実証実験を実施しました。実施内容は、首都直下地震を想定したTVニュース模擬画面を約100台のデジタルサイネージ版で放映し、災害時の発信情報入力中英中韓3か国語に自動翻訳しサイネージとWeb上に反映させました。

令和2年度は、「災害ダッシュボード4・0」として、引き続きサイネージへの放映を行いつつ、帰宅困難者受入施設での入退館受付業務のデジタル化（二次元コード）実証、受入施設周辺の混雑状況見える化実証を行いました。

巡回バスによる負傷者輸送、 鉄道駅と連携した情報発信

「災害ダッシュボード4・0」の機能をさらに強化し、社会実装に向けた実証実験を、令和3年度に社会実装を狙い始めた「災害ダッシュボード

Beta」として実施しました。「災害ダッシュボード2・0」で行った、負傷者のバス搬送実証実験後に関係者で検討を重ね、令和4年1月20日に災害時緊急輸送バスに関する協定を千代田区、日の丸自動車興業、三菱地所、東日本旅客鉄道（JR東日本）にて締結し、本協定に基づく初訓練も行いました。続く令和4年度には、「災害ダッシュボードBeta+（ベータプラス）」として、避難者・帰宅困難者に向けて発信する情報をデジタルマップに載せ、鉄道駅への二次元コード掲出による展開実証も行いました。

令和6年2月に先行機能を「災害ダッシュボードBeta」として社会実装した時期に「災害ダッシュボードBeta3」実証実験も行い、東京駅周辺防災隣組（地域協力会）負傷者搬送チームが、緊急輸送バスを活用し、GPS付ストレッチャーの負傷者搬送位置情報もデジタルマップで確認する実証実験も行いました。

例年実施してきた実証実験を踏まえ、今年2月14日に東京都・千代田区合同帰宅困難者対策訓練を東京駅周辺

で開催しました。都内の自治体職員や区内の協力企業社員、区内の外国語学校の生徒等、約100人が訓練に参加しました。災害ダッシュボードが英語対応していることから、外国の方に対しても、施設へのナビゲートを行うことができ、その有効性を確認できました。

今後も災害ダッシュボードは公民連携のもと、様々な機能の拡充を検討し進化を続けていきます。



大丸有地区のデジタルサイネージ（丸の内ビジョン）設置場所

子ども・子育て世代に向けた防災イベント・千代田区防災フェスタ

防災意識の醸成と防災ポータルアプリの認知度向上を図る

千代田区では、区民の防災意識向上を目的とした防災イベントを実施してきましたが、次世代を担う子ども・子育て世代の参加率が伸び悩んでいます。また、今年4月から運用を開始した新たな情報発信ツールである「千代田区防災ポータルサイト」および「千代田区防災アプリ」の認知度向上とその利用促進が求められています。その

ような点を踏まえ、防災意識の普及啓発や防災アプリの周知等を行えるよう、来場者が楽しみながら防災に触れてもらえる「千代田区防災フェスタ」を区として初めて実施します。

イベントやワークショップで楽しみながら防災を学ぶ

そんな千代田区防災フェスタは9月

28日（日）に日比谷公園で実施する予定です。本イベントでは、子どもやその親が楽しみながら学べるステージイベント、いざというときに役立つスキルを身につけられる体験型ワークショップ、協力企業等が出展し、各社の防災に関する取組や災害時のお役立ち情報を知ってもらう展示ブース、スタンプリー等で構成する予定です。

またまだ企画調整中ですが、来場いただいた区民等の防災意識を啓発できるよう、様々な情報・知識を身に着けていただけるようなイベントとなるように取り組みます。

情報避難情報等を確認できます。

す。防災アプリは防災ポータルサイトの内容にプラスして、プッシュ通知やアプリ登録者のみで連絡を取り合える機能があります。区としてこの防災ポータルサイトと防災アプリを多くの人に知ってもらい、災害発生時に情報収集等、有効活用してもらいたい

ため、防災フェスタの中で大々的にPRをしていきます。

災害時ポータルサイト

知ってほしい、災害発生時に情報収集等、有効活用してもらいたい

ため、防災フェスタの中で大々的にPRをしていきます。



平時時ポータルサイト



実証実験の様子



負傷者をシャトルバスに乗せる様子



エリア巡回バス「丸の内シャトル」



東京駅(丸の内線)に災害ダッシュボード
二次元コードを掲出